

## 米 国 と 自 動 車 (帰 朝 談)

久 保 田 広

昨年の2月から今年の3月まで一年間フルブライトの交換教授として米国ロチェスター大学の光学研究所で研究生生活をしてきたが、私が米国に渡りもっとも驚かされたことの一つは自動車の普及振りである。これは米国に渡った人が誰しも驚かされることであろうが、しばらく経つとこれに慣れて、これがあたりまえのように考えられ、日本へ帰っても事新しく報告する程のことではないと思うようになるので、その実情は行ってきた人々しか知らないのではないかと思う。そこで筆者は米国到着当時の驚きをそのままお話ししてみよう。

米国人にとっては自動車は下駄のようなものであるといっても誇張でないであろう。各家庭に2台はあり——主人の通勤用と家庭用——どこへでかけるにも自動車である。学生も大学生になると自分の車を持つよう



写真1 ロチェスター大学の寮と学生の自動車

になる。写真1は筆者のいたロチェスター大学的女子寮であるがその前の自動車は寮生のものである。大学の校舎を増築している工事場には周囲にポンティアック、クライスラー級の車がズラリと並んでいるが、これらは現場監督ではなく工員の自家用車で、四時半の笛が鳴ると一斉に仕事を止めて職工服の黒人も混えた大工、左官等がこれらの自動車に乗って家に帰って行く。大陸中部でお百姓さんの家を訪ねたときも、農場が幹線から離れた奥にあり、支線の汽車は二日に一回というところであったが自家用車を持っており、これで迎えにきてくれた。

日常生活に関する一切のことが自動車本位に作られてあり、郵便ポストも車に乗ったまま投函できるよう差入口が車道に向って伸びている(写真2)。その他 Drive Inn, Drive-in Theater, Motel などという便利なものがあるのは御承知のことと思う。映画館や劇場へ行くには必ず自動車をどこかへ駐車しておかねばならず、このた

め駐車料をとられる。日本の寄席などでは入場料の外に布とん、火鉢<sup>ソトモン</sup>などにいわゆる中銭<sup>ナカセン</sup>をとられたが米国では駐車のために外銭をとられる。これに反し Drive-in Theater へ行け



写真2 車から投函するポスト

ば車ごと入場し車内から観ているからこの心配もなく、また若夫婦が赤ん坊を自宅に残して映画を観にゆくには baby sitter を雇い、これに何ドルかを払わねばならないのに、Drive-in Theater は子供と一緒に連れてゆけ映画を観あきた子供は後の座席で寝てしまうという便もある。買物も盛り場のデパートなどへゆけば駐車料をとられるので、無料駐車場のある郊外の shopping center (写真3) で済ますということになる。



写真3 郊外の shopping center と買物をする人の車



写真4 New York State Thruway の入口 (有料道路)

道路の完備は驚くべきでドイツの誇るオートバーンも米国へくれば二流の道路というところで米国の一級道路(たとえば New York 州の Thruway(写真4), California の State free way (写真5))などと各州で名が異なるが鏡

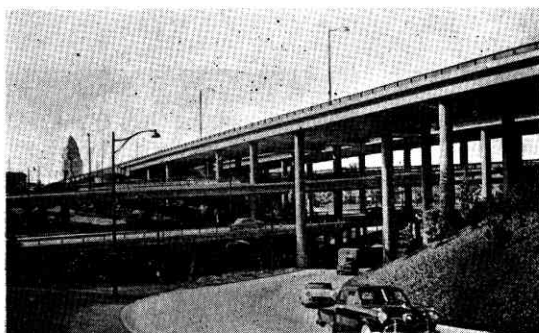


写真5 California State free wayの立体交叉(無料)

のごとき平らな道が前者は Buffalo, New York 間、後者は Los Angeles, San Francisco 間—いずれも約 650 km 東京、姫路間位の距離である—にありこの間 平面交叉なく、したがって go, stop の信号に逢うことなく約 100 キロ/時の速度で数時間走り続けることができる。道がよいので長距離バスの発達も目覚しく、全米をほとん



写真6 グレーハウンド長距離バス

ど独占しているグレイハウンドの大型バス(写真6)は車内に W.C. や足を伸ばし一夜を過せる日本の特二より



写真7 Grand Canyon 国立公園入口

一回り上等のレクライニングシートもある三日二晩の大陸横断の急行もあり、旅行者の大部分がこれを利用する。

各地の国立公園も道路が完備している代りに入口で入場料をとられる(写真7)。自動車で来る連中は天幕、炊事道具など一切を車に載せたり後に引張ったりしてやっ



写真8 キャンプ用具を持参の車

てくる(写真8)。国立公園の中にはこれらの受入れ場所—auto camp—があり、写真9は Yellowstone 公園内



写真9 Yellowstone 国立公園内の auto camp 入口

のその一つである。ここへは車に家族を満載し天幕だけでなく後にトレーラーハウスを引張った自動車も次から次へとやってくる(写真10)。この車には台所(プロパンガスボンベを積んでいる)食堂、寝室など一切が



写真10 トレーラーハウスを牽いた車

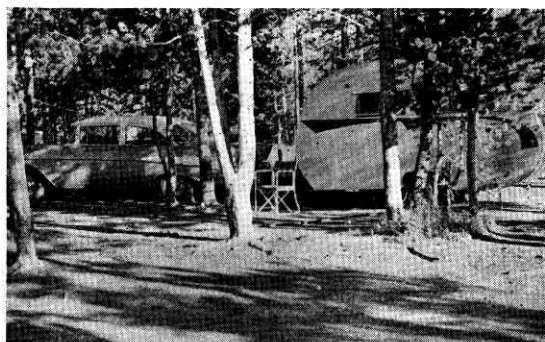


写真 11 auto camp site

あるので、キャンプサイトに車を停め一週間位一家中で楽しんでゆく(写真 11)。公園の中には大きな湖もあるので、湖上の遊びを楽しむために遙か何百哩の自宅か



写真 12 ボートも持参

らボートを持参する人も多く(写真 12)、欲張った人はボートとキャンプ用具と一緒に持ってくるものもある(写真 13)。したがって汽車を利用する人は少く汽車はガラ



写真 13 ボートとキャンプ用具持参の車

ガラであるので、汽車会社は写真 14 のような広告を出して、「何を苦しんで drive するのか、楽な汽車で」と宣伝しているが矢張り費用が一番かからないというのが魅力なのであろう自家用車族が大部分で汽車会社は採算がとれず苦勞している由である。

写真 15 は二階建の自動車ではない。これは写真 16 のような自動車を運ぶ車で一度に四台位載せて工場から

店頭へ新車を運ぶところである。

一台一台運べば運転手が車の台数だけ要るが、これによれば一人で済むのでこのようなことになる。人件費が何より高い米国らしい風景で、道がよいからこういう芸当もできるのであろう。汽車の窓から砂漠の中を往復しているこの車をよく見掛けた(写真 17)。

自動車が多くなると——すでに日本でも銀座や丸の内がそうであるように——不便なこともでてくる。

New York へ自動車で出掛けた人が目的の建物を眼の前にしながらどうしても駐車ができず遠く郊外まで戻

り、車を置いてからタクシーでやってきたという笑い話があるように、駐車の悩みは一番の問題である。繁華街ではどこでも駐車してよいというわけにはゆかず、駐車の許される所(写真 18)には必ず park meter (写真 19)

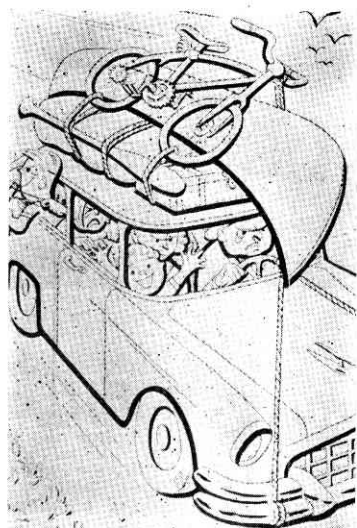
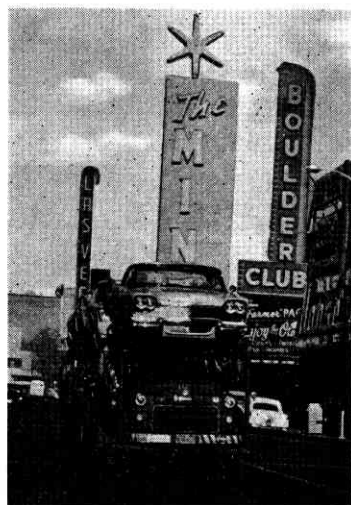
写真 14 Drive is not vacation!  
(汽車会社の宣伝)

写真 15 Las Vegas 所見



写真 16 自動車を運ぶ自動車



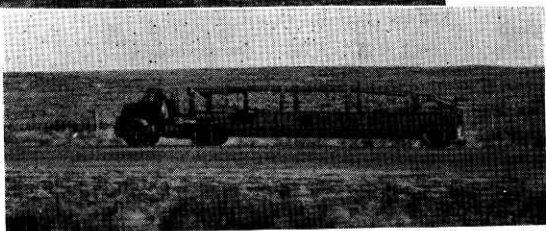
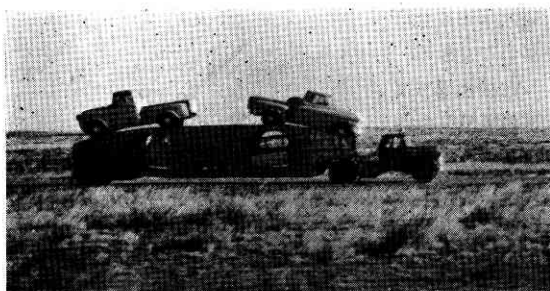


写真 17 自動車を運ぶ車（車窓所見，下は空車）



写真 19 パークメーター



写真 18 駐 車 場

があり、5セント入れれば約30分の駐車ができるが針が動いて定刻を過ぎ赤札がでていると巡査がきてカードを車のクリーナに挿んでゆき、翌日警察に出頭して罰金3ドルを払わなければならない。余りせち辛いのでゆく末はこうになるであろうという漫画まである（写真20）。

道路には全部番号がつけてあり、どんな所でもその番号を示す指標が数軒毎に建っているので道に迷うことは絶対ない。写真21はワシントンから南へ伸びるNo.

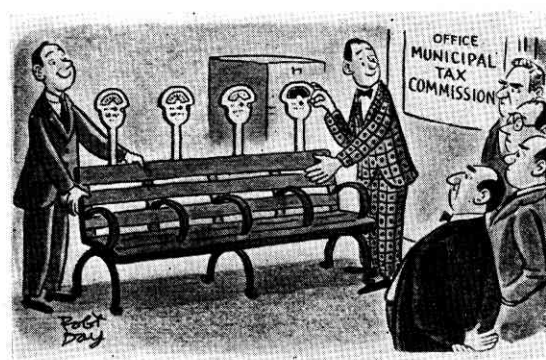


写真 20 将来は人間の駐車（？）も有料



真写 21 No.1 Highway (Florida にて)

1 国道の指標であり、下にA1Aと記してあるのはこの道が同時に写真22のフロリダ州道のNo. A1A道路の一部でもあることを示している。写真23はこれから先、間もなく Arizona

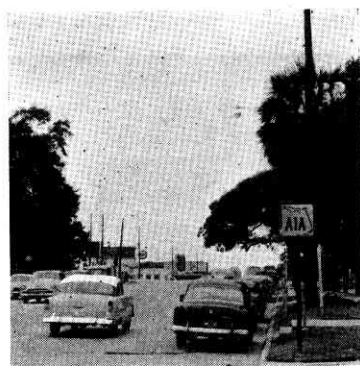


写真 22 No. A1A Highway (Florida にて)

州道 No. 89 との交叉点 (junction) があることの標示である。しかしこのように完備したのは近年になって国または州の仕事になってからの由で、その前は Drive Club の有志の人達が道路案内の立札を建てて歩いた由で何処の国でも pioneer の苦労はあるものである。スピード制限の立札も要所所に見られる（写真24、speedの単位は哩で km/h ではない）。

